

●たまちゃんバスが運行！

多摩川河口部から10kmほど上流の辺りに、互いに対岸となる大田区と川崎市に丸子という地名がいくつか見られます。この辺りは中世のころは荘園であり湊であったと何かの本に書かれていました。中世のころまでは河川の治水能力や船舶を支える技術的限界から、川幅の大きい利根川や多摩川などでは河口沿岸での恒久的な水運施設は見あたらず、湊という都市成立の適地はかなり限られていたようです。

この丸子に10月11日から、大田区で初めてのコミュニティバス～たまちゃんバス～が試行運行を開始しました。車両は日野・ポンチョ、運賃は150円、運行時間は9時から17時40分、運行間隔は30分に1本という具合です。

これは平成19年に全区を対象にバス導入について検討し、平成20～21年度にこの丸子地域を対象に検討した結果です。具体のルートから、運賃、バス停位置の地先交渉、愛称の選定、継続性確保方策に至るまで住民主体で検討され、導入過程から地域が支えるコミュニティバスとなっているところが極めて珍しい例です。警察立ち会いによる実走の結果、住民提案のルートは変更を余儀なくされるなど、導入することの難しさを住民の皆さんと共に痛感しました。

バスは、かつて湊のあった多摩川沿いを200mほど南下するルートを通りますが、川沿いは広大な河川敷となっており、対岸に立派な川崎市の街並みを見ることができません。

高尾利文（第二計画部）

●交通安全文化をテーマとした活動の実施

私はベトナムでハノイ交通安全人材育成プロジェクト（JICA）の一員として、交通問題改善に向けた技術支援を行う業務に従事しています。現在ベトナムは道路交通事故による死者数が年間1万2千人を超え、早急な対策が求められています。日本の交通事故による年間死者数は2008年で5155人。ベトナムの人口は日本の2/3程度ですので、いかに多くの人々が交通事故で亡くなっているかがわかると思います。

急激な経済成長と共にオートバイや自動車が増える一方で道路利用者の交通安全への意識は、改善され始めているものの先進国に比べるとまだ低く、道路標識や中央分離帯といった交通安全施設も不足しています。日本における交通事故による死者数は1970年に1万6765人でピークに達しましたが、同じような状況が今ベトナムで起こっています。このような状況に対して、本プロジェクトではベトナムの行政担当者（交通技術者、交通警察官、交通安全教育担当者）が自ら交通安全に資する取り組みができるよう、彼らの能力向上を目的とした取り組みを協同で行っています。

交通事故を減らすためには施設の改良、交通取り締まりの強化はもちろん、道路を利用する一人一人がルールを遵守し、交通弱者に対して思いやりのある行動を取ることが大切になってきます。この課題に対して昨年度から「交通安全文化」をテーマとしたパイロット活動を実施しています。活動内容は1つの地区を対象に住民による交差点での交通安全指導、交通標語バナーの設置、安全な道路横断を呼びかけるパンフレットの配布など、日本で行われているような交通安全教育・啓蒙活動です。交通安全と言うと大切だけど自分以外の他の人がやればよいというような総論賛成、各論反対に捉えられがちですが、文化という言葉に対してはベトナムの人たちは敏感で、それは自分たちで作り上げる物という意識が強いようです。

パイロット事業を通じて、対象地区の活動参加者・地元住民が活動の重要性を理解しその継続を支持したこと、地元住民・ハノイ市運輸局・交通警察・地区行政担当者が協働で活動を実施できたこと、ハノイ市が今年度他の3地区で同様の活動を実施することを決め予算を確保したことなどが成果でした。特に今年の9月の交通安全月間は「交通安全文化月間」という名前になり、各地で交通安全教育・啓蒙活動が実施されるよう、運輸省大臣から各関係機関へ通達が出ました。これもプロジェクトの成果のひとつであると感じています。

関 陽水（海外室）

●全国まちづくり会議に出席して

9月21日・22日の両日、川崎市のサンピアン川崎で、(NPO)日本都市計画家協会主催の「全国まちづくり会議2009 in 川崎 (通称：全まち)」が開催されました。2日間の参加者は延べ1200人を数え、大盛況のうちに幕を閉じました。

2日間参加して、今回、私の印象に残ったキーワードは「混在・融合」、「活力(気)」でした。勝手な解釈ですが「分離・純化・閑静」を追及してきた輸入型の都市計画から、いま「混在・融合・動」を許容する、「日本のまち」の計画へと移りつつあるのではないのでしょうか。

都市と農、住とものづくりなどが、混在・融合することで「魅力や活力」を生み出す。整った美しさはなく、むしろ雑然としているけれど、なんとなく「気を感じる」日本のまち並みや商店街。これらを活かしつつ、さらに居心地よくあるためには、どこでバランスをとるのか?どううまくコーディネートし、マネジメントしていくのか?それが、これからのまちづくりの課題かなと、漠然と感じた2日間でした。

全まちの詳細については、日本都市計画家協会ホームページをご覧ください。↓
<http://jsurp.net/>

出ッ所幸子 (第二計画部)

発行責任者：代表取締役 庄山 高司
事務局：株式会社アルメック 業務部
東京都目黒区青葉台 1-19-14
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210
Eメール hotnews@almec.co.jp
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>

Copyright 2009 ALMEC Corporation. All rights reserved.